

# 米づくり情報（NO. 10）

令和元年8月19日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

## 1 気象概況（アメダス観測地：伊万里）

| 月  | 半旬 | 平均気温     |          | 最高気温     |          | 最低気温     |          | 降水量       |           | 日照時間      |           |
|----|----|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|    |    | 平年値<br>℃ | 本年値<br>℃ | 平年値<br>℃ | 本年値<br>℃ | 平年値<br>℃ | 本年値<br>℃ | 平年値<br>mm | 本年値<br>mm | 平年値<br>時間 | 本年値<br>時間 |
| 8月 | 1  | 27.4     | 28.9     | 32.2     | 34.0     | 23.7     | 24.9     | 28.7      | 0.0       | 34.0      | 55.9      |
|    | 2  | 27.4     | 27.7     | 32.2     | 32.9     | 23.7     | 23.8     | 31.2      | 25.5      | 32.8      | 26.1      |
|    | 3  | 27.3     | 28.7     | 32.0     | 33.8     | 23.8     | 24.8     | 35.9      | 45.0      | 30.1      | 34.2      |
|    | 4  | 27.0     |          | 31.7     |          | 23.5     |          | 38.1      |           | 28.7      |           |
|    | 5  | 26.6     |          | 31.3     |          | 23.0     |          | 38.3      |           | 28.7      |           |
|    | 6  | 26.1     |          | 30.9     |          | 22.4     |          | 45.4      |           | 35.2      |           |

- 1) 8月1半旬は平年と比較して、平均気温は平年より1℃程度高く、降水量は少なく、日照時間は多照傾向で推移した。
- 2) 8月2半旬は平年と比較して、平均気温は平年並みとなり、降水量は少なく、日照時間は寡少傾向で推移した。
- 3) 8月3半旬は平年と比較して、平均気温は平年より1℃程度高く、降水量は多く、日照時間は多照傾向で推移した。

## 2 生育状況（8月19日）

| 項目<br>品種(設置場所)           | 年次  | 草丈<br>cm | 莖数<br>本/m <sup>2</sup> | 主稈<br>出葉数L | 葉色<br>SPAD | 概要  |
|--------------------------|-----|----------|------------------------|------------|------------|---|
| ヒノヒカリ<br>6/19移植<br>松浦町桃川 | 本年値 | 92.5     | 367                    | 13.8       | 31.3       | ・草丈は平年並であり、莖数は少ない。<br>・主幹出葉数は平年より少なく、葉色はやや濃い。 |
|                          | 平年値 | 93.4     | 433                    | 14.1       | 30.3       |   |
|                          | 平年比 | 99       | 85                     | -0.4       | +1.0       |   |
| たんぼの夢<br>6/18移植<br>松浦町桃川 | 本年値 | 80.3     | 419                    | 13.7       | 40.7       | ・草丈と莖数は平年並み。<br>・主幹出葉数は、平年並であり、葉色はかなり濃い。      |
|                          | 平年値 | 79.2     | 427                    | 13.8       | 35.8       |   |
|                          | 平年比 | 101      | 98                     | -0.1       | +4.9       |   |

※夢しずくの耕種概要は、稲作情報 No.2 を参照。

※夢しずくの出穂期は8月9日となった。

※ヒノヒカリ、たんぼの夢の耕種概要は、稲作情報 No.3 を参照。

## 3 今後の管理

### 1) 山間早植え水稻（5月上旬移植）

- ・乳熟期～糊熟期となっている。
- ・水管理は間断灌水を行い、土壌を固めると共に根の活性化を図る（土が柔らかい圃場では、間断灌水の落水期間を長めにし、土壌表面を固める）。また、収穫の7日前までは必ず間断灌水を行い、圃場に水を通すようにする（早期落水による米の品質低下を防ぐため）。

## 2) 普通期水稻「夢しずく」

- 穂揃い期～乳熟期を迎えている。
- 穂孕み期から穂揃い期にかけては、イネの用水要求度が高い時期であるため、水が切れることがないように圃場の水管理を徹底する。

《参考 夢しずくの出穂状況》

- 5月25日移植：8月3日（標高100m）
- 6月3日移植：8月9日（標高70m）
- 6月10日移植：8月17日（標高100m）
- 6月19日移植：8月21日頃（標高25m）

## 3) 普通期水稻「たんぼの夢」、「ヒノヒカリ」等

- 現在、生育ステージは幼穂形成期～穂孕み期となっている。

《参考》出穂期の平年値

|       |        |
|-------|--------|
| ヒノヒカリ | 8月26日頃 |
| たんぼの夢 | 8月27日頃 |

## 4) 共通

### ①いもち病

- 葉いもちの発生が見られる圃場や地域では、穂孕み期の防除を徹底する。また、発生が多いと予想される場合（上位3葉に病斑が確認される）は、穂揃い期にも臨機防除を行う。

※いもち病の発生が著しい場合、間断灌水における落水期間を長くすることで病気を助長することがあるので注意する。

【穂いもちの防除適期】

| 病害虫名 | 稲のステージ<br>出穂前後日数 | 防除適期 |     |    |    |    |     |     |     |
|------|------------------|------|-----|----|----|----|-----|-----|-----|
|      |                  | -15  | -10 | -5 | 0  | +5 | +10 | +15 | +20 |
| 穂いもち | 並発生の場合<br>多発生の場合 |      |     | ←→ | ←→ | ←→ |     |     |     |



いもち病（進展型）



いもち病（停止型）

## ②ウンカ類

※8月1日に農業技術防除センターより「トビイロウンカ」の発生予察注意報が発表された。

※7月30日～31日にかけての農業技術防除センターによる県中西部を中心とした臨時調査（33圃場）では、トビイロウンカの発生圃場率は60.6%であった（伊万里市の調査では5圃場中1圃場で幼虫1頭確認）。これは、8月上旬の定期調査での発生圃場率（平成9.1%、本虫が多発生した2013年は37.5%）より高い。また、増殖率が高い短翅型雌成虫が既に散見されるとともに、一部圃場では本虫の急激な増加を確認しており、嬉野市の調査においては10株当たり218頭（成虫45頭、幼虫173頭）確認されている。




※セジロウンカの飛来量が少ない年は、トビイロウンカの増殖率が高まる傾向にあり、本年は、セジロウンカの飛来量が少なく、トビイロウンカの増殖に好適な条件となっている。









※7月24日発表の九州北部地方の3ヶ月の予報では、8月の気温は平年並か高いと予想され、本虫の増殖にやや好適な条件となっており、発生が更に増加し被害を生じる恐れが高まっている。

※特に、フルスロツトル箱粒剤ではなく、ブイグットプリンスリンバーL粒剤等を使用している圃場では、注意して圃場を観察しウンカ類の発生状況把握に努める。

### 【ウンカ類の見分け方】

ウンカ類幼虫の見分け方について

|         | 若齢幼虫の体色 | 中～老齢幼虫の体色                   | 水面での後脚の出し方  |
|---------|---------|-----------------------------|---|
| セジロウンカ  | 白っぽい    | 灰白の斑紋                       |  :真横        |
| トビイロウンカ | 白っぽい    | 薄茶か茶褐色                      |  :真横～やや斜め後ろ |
| ヒメトビウンカ | 黄褐色     | 淡黄色か薄茶か茶褐色<br>(体側の色が濃い場合あり) |  :斜め後ろ      |

|    |       | トビイロウンカ   | セジロウンカ  | ヒメトビウンカ   |
|----|-------|---|---|---|
| 成虫 |       | <br>長翅雌      短翅雌 |  | <br>雌      雄 |
| 幼虫 | 若齢    |                  |   |              |
|    | 中齢～老齢 |                  |  |              |

## トビイロウンカ各世代の発生予測（2019年7月24日作成）

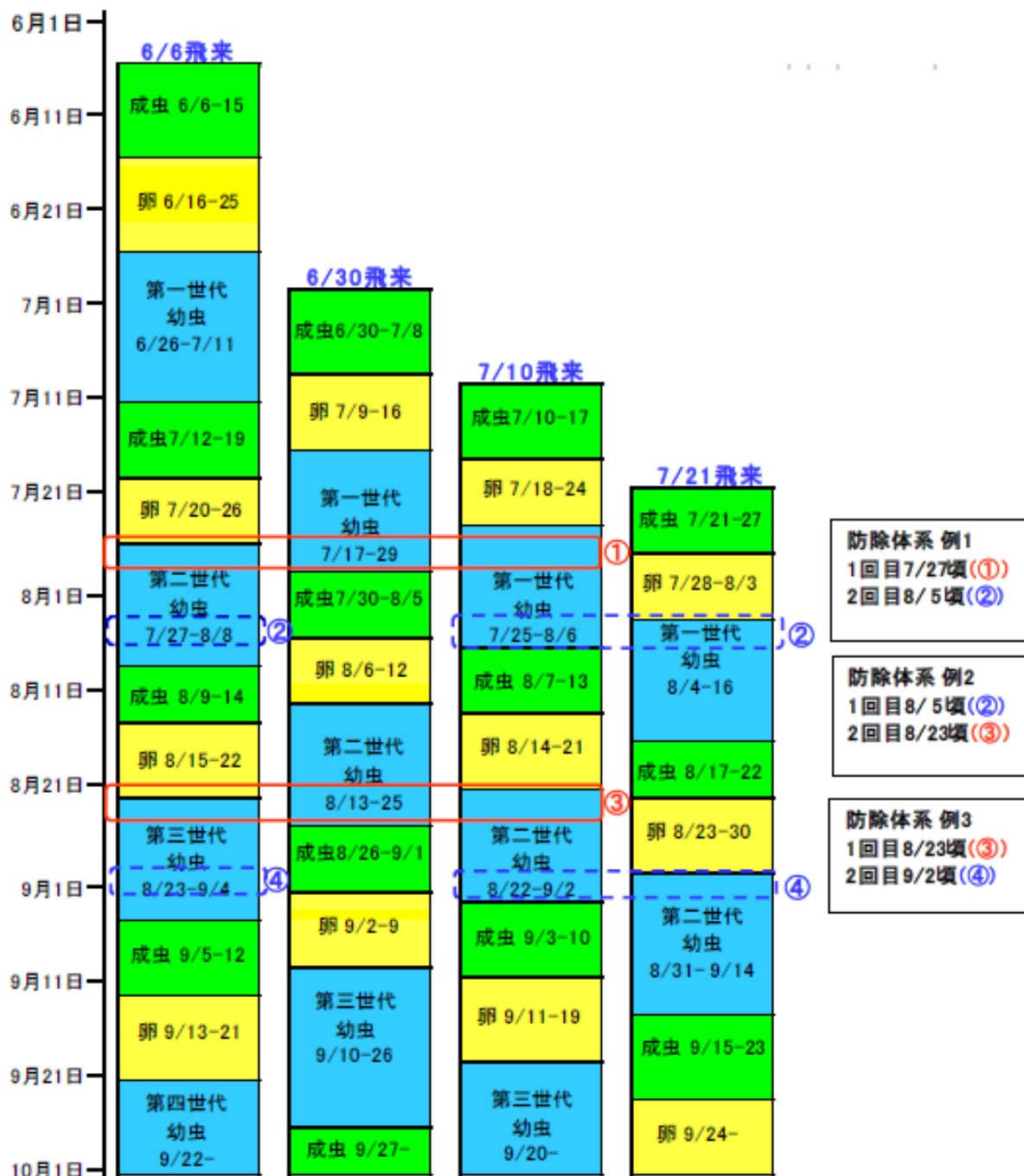


図2 トビイロウンカ各世代の発生予測(第5版、2019年8月1日作成)

1. 6月6～7日頃(図では6月6日)、6月30日頃、7月10～11日頃(図では7月10日)、7月21日頃に飛来したウンカを起点とし、有効積算温度と佐賀市川副町の気温データ(第4版では7月22日までは実測値で以降は平年値、第5版では7月31日までは実測値で以降は平年値)を基に作成した。その結果、第5版は第4版と比べ、各飛来虫の、その後の発生時期は約0～1日遅くなったが、全体としてほとんど変わらない。
2. 普通期水稻には、6月6日飛来虫は定着していないと考えられる。この例のように、各飛来波に対する防除の重要度は、田植え時期によって異なる。
3. 本虫に対しては、幼虫ふ化揃い期の防除効果が最も高い。しかし、本年は断続的に飛来がみられたことから、飛来波ごとの幼虫の出現時期は異なると予想される。複数の飛来波の幼虫を、より効率的に防除可能と考えられる時期として「6/6、6/30、7/10飛来波を対象とした場合を実線赤枠(①、③)」「6/6、7/10、7/21飛来波を対象とした場合を点線青枠(②、④)」で示した。さらに、全ての飛来波を対象とした場合の体系防除の例(1～3)を、本図の右側に示した。
4. 田植え時期に加え、地域、水稻の品種、これまでの防除歴等の違いによってウンカの発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
5. 今後の飛来状況、気象経過に応じて、本図は更新する。最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

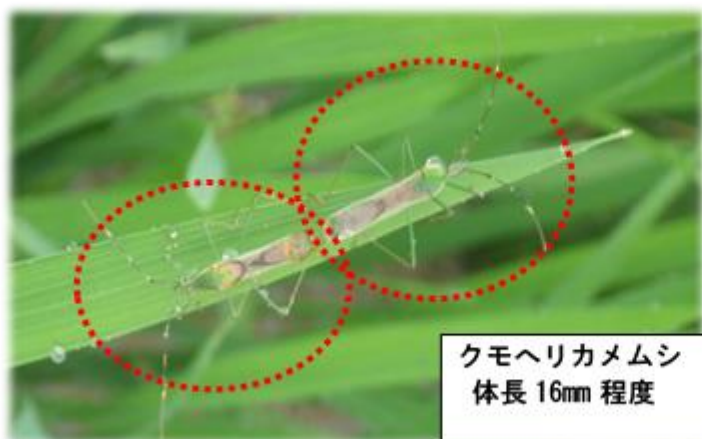
### ③カメムシ類

- 耕種的防除として、出穂 10 日前までには必ず畦畔の草刈りを終える。出穂後に行くとカメムシ類が圃場に侵入し、被害を助長する。
- 薬剤防除としては、乳熟期（出揃い期の約 10 日後）の防除を徹底して、斑点米の被害防止を図る。発生が多い圃場では穂揃い期（出穂期の約 5 日頃）と乳熟期の 2 回防除を実施する。

★多発生の目安 ⇒ 20 回のすくいとり調査でカメムシが 5 頭以上の場合

【カメムシ類の防除適期】

| 病害虫名  | 稲のステージ<br>出穂前後日数 | 稲の生育ステージ |     |    |   |    |     |     |     |
|-------|------------------|----------|-----|----|---|----|-----|-----|-----|
|       |                  | -15      | -10 | -5 | 0 | +5 | +10 | +15 | +20 |
| カメムシ類 | 並発生の場合<br>多発生の場合 |          |     |    |   |    | ←→  | ←→  | ←→  |



クモヘリカメムシ  
体長 16mm 程度



ホソハリカメムシ  
体長 11mm 程度

### ④紋枯病

- 昨年度形成された菌核が伝染源となるため、昨年度発生した圃場では薬剤防除を徹底する。

| 病害虫名 | 稲のステージ<br>出穂前後日数 | 稲の生育ステージ |     |    |   |    |     |     |     |
|------|------------------|----------|-----|----|---|----|-----|-----|-----|
|      |                  | -15      | -10 | -5 | 0 | +5 | +10 | +15 | +20 |
| 紋枯病  | 並発生の場合<br>多発生の場合 | ←→       | ←→  |    |   | ←→ | ←→  | ←→  | ←→  |

## ⑤コブノメイガ

- 本年は、ここ数年と比べてコブノメイガの発生・食害が多い。
- コブノメイガの防除適期は、発蛾最盛期の7日後（幼虫孵化揃い期）である。被害葉が多くみられる圃場では、蛾の発生状況に応じて臨機防除を実施する。

## ⑥稲こうじ病

- 本病は土壌伝染病であるため、昨年発生が確認された圃場では適切に防除を実施する。
- 薬剤防除として水和剤や粉剤を使用する場合は出穂の20～10日前に、粒剤の場合は出穂30～20日前を中心に防除を実施する。また、肥料が遅効きしないよう適切な肥培管理を行う。

# 令和元年産水稻生育期間気象グラフ (アメダス：伊万里)

西松浦農業改良普及センター

